

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500033		
法人名	有限会社UTASI		
事業所名	グループホーム九十九の里		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦802-8		
自己評価作成日	令和5年12月20日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の影響で面会、外出等制限はしていたが季節ごとに花見やお祭りへの参加外出は行った。またホーム内では毎日の体操や季節の行事七夕会、夏祭り、敬老会、クリスマス会、お誕生会もおこなっている。火災、災害避難訓練など頻繁に行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和6年2月10日		

ホームは佐世保市鹿町町の長閑な場所にあり、ホームで過ごしながらも自然や季節感が感じられる環境にある。職員は「安心して過ごすということ」「自分らしく生きるということ」との理念を念頭におきながら支援を行っており、今年度は感染症への対応も緩和され徐々に季節の花見や家族との外出、面会時間等活動にも広がりを見せている。ホームはお互いを認め合う雰囲気から職員の定着にも優れ、身体拘束や感染症、防災等職員を中心に2名体制で担当を担い、業務内容や委員会の進め方など先輩職員がスキルや経験を伝え体得できる体制を整えている。職員が意欲的に委員を担い、ホームの運営に積極的に参加し日々の業務に反映している。将来的な人材確保への課題もあるが、各々が知識の向上や働きやすい職場づくりへの意識が高く、支援に活気が感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所・食堂など見える位置に理念「安心して暮らすということ」「自分らしく生きること」をかかげ実践につなげるよう心掛けている。	ホームの理念は玄関など訪問者が目に留まりやすい場所に掲示し、理念の周知を図っている。職員はケース会議や支援方針を話し合う際に理念の振り返りを行っているほか、起床時間など強制せず、本人がしたくないことは無理強いさせないことを意識し、入居者本位の生活を支援し理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になり少しずつではあるが地域との関わり(地区のおくち、文化祭)、外出や散歩など感染予防もしつつ再開へ進んでいる。	感染症対策に慎重に対応しつつ、徐々に地域行事への参加の機会を増やし、入居者も地域行事を間近で楽しんでいる。今年度は地域の高校生が実習に訪れ、また、地域に向けた介護教室では地域の介護ニーズに敏感に反応し、関係機関との連携を図りながらホームへの入居に至ったケースもあった。地域に向け介護の専門性を活かした関わりが持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を行い、地域の方々にも参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		運営推進会議は書面により実施し、定期的に社会福祉協議会、地区長、民生委員、地域住民、家族参加のもとで会議が行われている。事前資料にはホーム便りとともに入居者の暮らしぶりや行事報告を行い、ヒヤリハットや事故報告で今後の対応方法や話し合いの結果を報告している。運営の透明性が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナにより一度落ち着いた時に公民館で行ったがホーム内でコロナ感染があり再び書面(九十九だより、議事録等)を送付し意見を聞きいたり書面での返信で意見を頂いたりし協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の長寿社会課とは研修の案内など日常的に関わる機会も多く、市からの委託で開催する介護教室も内容を共に協議するなど協働関係を築いている。直近では認知症予防研修に参加し、軽度認知障害へのアプローチの仕方を学んだ。こまめに行政とのやり取りを行い協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の担当者が中心になって身体拘束研修(3か月に一回)や身体拘束適正化委員会会議をホーム内で行っている。WEB研修などにもスタッフで話し合いながら参加しケアに取り組んでいる。玄関の施錠を夜間のみ行っている。	ホームでは身体拘束担当者を中心に身体拘束適正化委員会を開催し、資料作成や研修内容など担当者が主体となって身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。直近の研修では「同時にコール対応が必要となった際どう対応するか？」と現場で起こりうる具体的な事例からそれぞれの意見を出し合う機会を持った。	運営規程に虐待防止に関する事項が明示されていない。令和3年度介護報酬改定に係る基準等の変更に伴い、来年度より義務化される「虐待防止のための措置に関する事項」を運営規程に明記し、職員や家族に周知し取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナが落ち着いてきたことで少しずつではあるが外部研修が行われ参加している。スタッフ同士で声掛けや言葉遣い、強い口調など気づいた時にお互い注意し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者様、家族様へわかるような言葉で説明しながら不安や疑問など尋ね十分説明を行い理解、納得して頂き契約結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に日々の日常会話や様子、声掛けなどから思いを引き出し、家族様には電話、面会等にて意見を聞いている。	職員は世間話の流れで入居者や家族の本音を引き出し、意見や要望などを気軽に話せるよう努めている。入居者の日常生活に関わることについては家族と自宅での様子を尋ね、本人や家族の意向に添うよう関わりが持たれている。具体的な対応方法は申し送りノートや業務日誌で共有し、入居者や家族との関係構築に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を行いスタッフの意見や要望、提案を出来るだけ聞き入れ話し合っている。また雑談の中でも意見を交換している。	ホームではパワハラ、身体拘束、感染症、防火管理者等2名体制による担当者を配置し、職員それぞれが主体的に運営に関わる体制を整備している。職員の提案に「やってみよう」とお互いを認め合う雰囲気があり、意見や要望を気兼ねなく言い合える環境が職員の定着にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料や手当がついたり、希望休、有給なども取りやすい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修やWEB研修など自発的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加し意見交換や研修する機会もあった。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会を行い困っている事、不安など聞き取りを行い安心できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面会行い希望を聞き信頼関係が築け安心してもらえるよう努めている。また見学は感染症対策にて玄関先やバルコニーから行ってもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様より希望、要望を聞き必要としている事を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の能力を見極め、手伝いやレクレーションを行いスタッフが会話に参加し入居者同士の関係も築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、電話などで現状報告したり、日頃の活動の写真などを新聞にし家族様に送付している。中には家族さん同行での通院等があり本人、家族様との関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バルコニーでの面会や散歩での会話などコロナが落ち着いてきた事でできるようになってきている。感染の安全を考えながらの外出も少しずつ行っている。	ホームでは家族行事や友人の訪問を積極的に受け入れ、入居後も入居者本人なりの馴染んだ生活が継続できるよう努めている。今年度は入居者それぞれが手書きの年賀状を書いたり、子の還暦祝いに出席することもあった。個別支援で教会に参拝に出かける事例もあり、それぞれの思い入れに寄り添い対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う人同士席を近くしたりスタッフが間に入って会話をしたり、家事手伝い、日光浴をバルコニーで季節柄いい日には行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で入居者様の様子、会話などから希望を見つけ入居者様の希望に少しでも近づけるよう努めている。	職員は入居者の表情や声掛けの反応からその方の思いを汲み取り、意向の把握に努めている。住み慣れた場所を離れた本人の環境の変化や、ひとりであることへの不安を理解し、その方ができる家事で役割を担ってもらうことで居場所をつくり、入居者が安心して暮らせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りや本人様との会話などから把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で気分の変化や行動パターンなど現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと担当者、担当者以外の職員も意見を出し合い、家族様の希望も取入れケアプラン作成している。	ケース記録はその日の出勤者により複数で対応し、多数の目から新たな気づきや行動の記録が残されている。援助内容が生活に繋がっているか書式で確認できるよう整備され、毎月記録をもとに介護計画の進捗状況を確認している。わかりやすい言葉で家族へ支援状況を説明し、家族の意向を確認しながら次回の介護計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録、申し送りノートなどに日々の様子、変化などを記入し共有しながらケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族さまに合ったサービス提供できるように話し合い取り組んでいる。(逢えない家族様とは電話等で連絡合っている)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域のおくんに参加されくじ引きや餅拾いに参加され楽しんでいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を出るだけ継続し通院行っている。受診困難な時は、電話等で相談報告を行い内服のみをお願いすることもある。家族から要望があった場合病院を転院する事もあり希望に沿った支援行っている。	ホーム対応で受診支援を行い、定期受診の際には主治医に事前に伝えるべきこと・確認する内容を通院記録にまとめ、受診に備えている。担当者は主治医からの説明や内服の変更、検査結果等通院記録により職員と共有し、家族への報告や適切な医療に注意を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活、日々の関わりで変化や状況など受診時、電話などで看護師やDrに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に必要な書類を用意し病院で対応してもらてるように情報交換を行っている。退院時には病院よりサマリーをもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてはターミナルケア行っていない為契約時に十分な説明を行っている。	入居時に看取りに関する事前アンケートの実施により家族の意向を把握している。今回、病状体調悪化に伴い、主治医や家族と連絡を密にとりながら看取りを支援した。家族への対応や経過観察など、職員も心構えや支援体制など今後事業所としても関係機関との連携や知識を深めていく意向にある。	現在は医療との連携体制に課題があり、円滑な看取り対応が困難な状態にある。ホームとしては必要な対応や具体的な知識を習得し、備えていく意向にあり、今後、厚労省が提示した患者の看取りに関する指針への理解を深め対応することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて研修や消防署に依頼し指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回、消防署へ依頼しホーム内では月1回訓練を行っている。また年2回の災害訓練、備蓄備品の管理も行っている。	防災担当者を中心に月1回の避難訓練を実施し、有事の際に迅速に対応できるよう取り組んでいる。訓練はその都度、出火場所や昼夜想定、風水害と訓練内容に変化をつけ、入居者の安全を確保する意識づけがなされている。地域からもSOSネットワークによる協力体制が整備され、災害訓練に急遽地域住民が参加する機会もあった。避難経路の確認等、誰もが柔軟に対応できる体制が整備されている。	ホームでは避難訓練を反復して行うことで職員が防災意識を高める取り組みがあるが、現在までにBCP(業務継続計画)については策定段階にある。今後、BCPの策定と共にBCPIに沿った研修、訓練(シミュレーション)の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに応じた声掛け、わかりやすい声掛けを行っている。	職員は日常的に入居者に対して傾聴や共感を重視した関わりを持ち、今年度は目線の高さや入居者の話を聞く力を深める研修に参加するなど入居者との信頼関係構築に努めている。お化粧品や入居者が生活するうえでの物の置き方等、入居者本人のこだわりを大事にし、その人らしさを大切にしたい関わりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや、希望が言えるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のその日の体調や気持ちの変化を尊重し食事、就寝、起床など自分のペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室にタンスがあり本人様の洋服があるので自由に更衣したり、選んでもらったりしている。洗面所にはくしを置き髪を整えたり化粧ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に献立を考えたり食事の調理、配膳の手伝いなど行ってもらっている。	毎食、職員による手作りの食事が準備され、入居者は調理の工程を五感で感じる事ができる環境にある。入居者の食べたいものを献立に取り入れ、朝食にパンやフレンチトーストが並ぶこともある。自力で食事を食べることを大事にしており、認知症状で食事動作を失わないよう食事環境を整え、集中して口に運ぶことができる支援の工夫もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や食事形態に合わせ配慮しながら支援を行っている。個人の好まれる飲み物を提供する事で水分量も摂取出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛け見守りにて口腔ケアを行っている。中には口腔ケアを自分で行うことが困難な入居者様もおられその場合職員が口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行っている。	職員は入居者への尊厳を意識し、それぞれの運動機能や排泄のペースに合わせて、排泄を促すよう取り組んでいる。トイレの場所が理解できるようトイレドアに大きく張り紙をし、できるだけ本人に任せ見守りを行っている。生活の中で足を動かす運動を意識的に取り入れ、一連の動作でできない部分だけを補う姿勢で支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量心掛けてはいるが便秘の際にはDrに相談し処方された薬を服薬してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を見ながら一人ひとりのタイミングに合わせて入浴してもらっている。本人が希望する日には出来る限りシャワー浴、ジャグジーバスなど希望に応じ楽しんでもらえるよう支援を行っている。	週に2~3回の入浴を基本とし、特に入浴に消極的な入居者に対しては自分で入りたい日を決めてもらう声掛けをし、その方が入浴に前向きになる言葉かけを工夫しながら入浴が負担にならないよう努めている。入居者ひとりで入浴したい希望があれば、職員が遠目で見守り対応しながら安心して入浴できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房で温度調節を行ったり、テレビはオフタイマーにするなど安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時に通院記録を記入し、薬の変更やDrからの指示など分るようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて役割を持ち楽しみのある日々を過ごして頂けるよう支援行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見やドライブなどの外出や家族様と美容室や知人宅への外出、希望者は職員や家族様と買い物へ行ったり外出支援行っている。	感染症対策に注意を払い、今年度より徐々に季節の花見や散歩に出かけ、行動範囲を広げている。家族の協力を得ながら思いおmoiの場所に出かけ、トマトやきゅうりの苗と一緒に購入し、家庭菜園を通して季節を感じられる工夫もある。建物テラスを利用した外気浴や浴道を散歩する地域住民との交流など気分転換するような取り組みがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望でお金を所持したり使えるよう支援行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方の希望があればテレビ電話で会話をしたり、贈り物や手紙が届いた場合は手紙を書いてもらったり、お礼の電話をかけたりし携帯を持たれている方には自由に使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替えや加湿器を置いたり、季節のカレンダー、花などを置いたりしている。	現在、面会はテラスで対応しているため玄関先が備蓄品で雑多な印象を受けるが、リビングは温かな色合いや家庭的な調度品を使用し、居心地のよい空間が準備されている。感染症対策として1日2回のアルコール消毒や加湿器・空気清浄機を使用し、気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思いのまま居間での体操や会話、歌を歌ったり好きな場所で好きな事をして過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅よりタンスや布団、机など使い慣れたもの馴染みのあるものを持ってこられ本人様が居心地よく過ごして頂けるよう工夫を行っている。	自宅で使用していた家具やそれぞれの好みに応じた寝具の持ち込みがあり、信仰心への理解にも配慮した居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。化粧品や洗面道具等手回り品の置き場所は入居者自身が決め、職員はその方の自宅である事への理解を図り支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動が出来る様ソファの位置を変更したり場所が分るよう貼り紙をしたり工夫をしている。		